

## 第2回ガストロノミーツーリズム スタートアップコンペティション (2020年)

### 受賞者取組事例

UNWTO 駐日事務所(2022年2月21日時点)

#### 優勝者

Jiranis Food (ケニア)

アフリカの地域住民が、訪れた観光客に食の体験を提供できるよう、観光客とホストを繋ぐウェブサイトの運営をしており、住民に適切で持続的な収入の機会を確保し、地域コミュニティを支援している。

#### 最終候補者

##### 1. Cookly(タイ)

主に観光客が地域の食文化を学ぶ料理教室(チーズやワイン作り等)を予約することができるウェブサイトを運営。現在(2020年時点)50か国から1000を超えるパートナーを有し、地域の農家と生産者の収入源を多様化し、より持続可能なビジネスを提供している。

参考: Cookly ウェブサイト(日本語) <https://www.cookly.me/ja-jp/cooking-class/thailand/>

##### 2. Eatour (イタリア)

イタリアの大学の研究プロジェクトとして始まった気候変動対策の事業。レストランと消費者に対してメニュー/食事の摂取カロリーとそれを提供するために排出された温室効果ガス量が可視化できるアプリを開発(スマートフォン上でも利用可能)。抑えることのできた排出量に応じて、特典として EATCOIN が付与される。※(EATCOIN ブロックチェーンを使った電子マネー)

##### 3. Foodication (プエルトリコ)

食通(foodies)や食を通して文化を学ぶことを目的に旅行する人を対象にした、レストランガイド&ツアーを紙媒体及びアプリ(有料)で発信している。また Foodication のプラットフォーム上で中小規模のレストランに対し、食に関する商品開発や、本への掲載、イベント開催、ビジネスモデルの構築、マーケティング活動等の支援を行うことで、収入の機会を提供している。

##### 4. FOODIEON (韓国)

農家の人々が収穫した農産物を販売するためにはマーケティングが必要であるという背景のもと、Foodieon のツアーは地域の農家と連携し、ツアーを企画・販売。FOODIEON は農業事業者に収入の機会を提供し、地域経済の活性化に貢献している。

## 5. UpperEat (デンマーク/スペイン)

平日に稼働率が低いレストランと、食事(ランチ等)を取る場所の確保に悩む社員を有する企業との B2B の事業。独自のデジタルプラットフォームで、請求書や報告書等の煩雑な事務処理を一本化できるため、コストと時間を削減に貢献している。

※[Final of the 2nd UNWTO Gastronomy Tourism Startup Competition](#) (Youtube)

(24:51 以降の各受賞者のプレゼンテーションより要約)

[第 1 回ガストロノミーツーリズム スタートアップコンペティション 受賞者に関するウェブサイト](#)

(UNWTO 本部ウェブサイト・英語)

★過去の日本からの受賞者について

第 1 回ガストロノミーツーリズム スタートアップコンペティション (2019 年)

**株式会社 GINKAN**

詳細については以下をご覧ください(株式会社 PR TIMES のウェブサイトに移行します)。

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000009.000035259.html>

第 1 回ガストロノミーツーリズム・スタートアップコンペティション プレスリリース

(UNWTO 本部ウェブサイト・英語)

<https://www.unwto.org/global/press-release/2019-04-02/announcement-finalists-1st-global-gastronomy-tourism-startup-competition-0>